

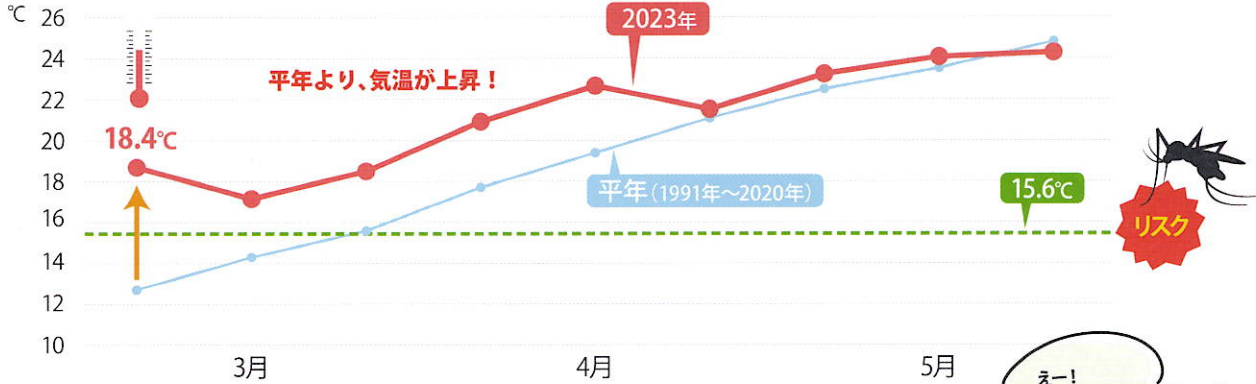
温暖化とフィラリア症予防

フィラリアを媒介する蚊の活動・発生は気温に依存しています。直近の春(3~5月)や初冬(10~12月)の気温は以前と比較して高くなっている傾向があります。

【予防をする】という観点から余裕をもった予防期間が必要になってきています。

2023年の東京の日最高気温(平均)の推移【3月~5月】

※15.6℃:蚊が活動し、からだの中でフィラリア幼虫が第3期幼虫に発育できる温度



2023年の東京の日最高気温(平均)の推移【10月~12月】



American Heartworm Society (米国犬糸状虫学会)では、「犬猫ともに**1年を通した予防を推奨**」しています。

気象庁のHP「過去の気象データ検索」を加工して作成

※出典:気象庁HP「2024年秋(9~11月)の天候」

当院の推奨プログラム

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
オールインワン製剤* 投与期間	推奨期間												
ノミ・マダニ 駆除薬投与期間	ノミのリスク ^{※2}												
	マダニのリスク ^{※3}												
フィラリア症 予防薬投与期間	推奨期間												
	AHSガイドライン												
	2023年東京 ^{※1}												
	推奨期間												

※1 2023年(東京)の日最高気温に基づく犬糸状虫予防薬の推奨投与期間:蚊の発生1ヵ月以内から発生終息1ヵ月後まで投与を想定

※2 2023年(東京)に日最高気温が13℃以上の月に基づくノミのリスク期間および住環境による1年中のノミ寄生のリスク

※3 マダニは種類、地域によってリスクが異なる→飼育環境によっては1年中リスクがある

* フィラリア症予防、ノミ・マダニ対策、複数のお腹の虫駆除を1剤で対応